

2013年2月7日  
第4回知の市場年次大会

拠点：東京お茶の水女子大学 知の市場  
サイエンスコミュニケーション実践論1と実践論2～リスクコミュニケーション入門  
連携機関：日本サイエンスコミュニケーション協会

日本サイエンスコミュニケーション協会  
佐々義子

### 1. 日本サイエンスコミュニケーション協会とは

日本サイエンスコミュニケーション協会は2012年1月、「21世紀型科学教育の創造 (<http://www.sci-edu21.org/>)」(2003年～2010年、研究活動、ワークショップを実施)メンバーが核になって発足した一般社団法人である。「サイエンスコミュニケーションを促進することにより、社会全体のサイエンスリテラシーを高め、人々が科学技術をめぐる問題に主体的に関与していける社会の実現に貢献する」ことを目指して活動している。

### 2. 知の市場での活動(2012年後期での実施講座)

知の市場では、2012年度後期「サイエンスコミュニケーション実践論」を開講し、サイエンスコミュニケーションの意味、科学館や天文台を中心としたサイエンスコミュニケーション、産業技術をめぐるサイエンスコミュニケーションについて学び、サイエンスカフェの演習を行っている。2013年度前期には、さらに実践的な視点から、リスクコミュニケーションの実践事例を通じて学ぶ講座を開講する。内容的には相前後するが、2012年後期に実施した「サイエンスコミュニケーション実践論1」をより洗練された基本的な実践論として2013年後期に開講する。

### 3. 2013年度新規開講講座

#### 目標

21世紀の今日、「知識のための科学」や「産業のための技術」に加えて「社会における、社会のための科学技術」の重要性が認められるようになった。科学技術の本質を理解し、適切に技術を選択し、社会の課題に主体的に関与し判断できるように、市民にも「科学技術リテラシー」が求められている。同時に、「科学技術リテラシー」向上のために、リスクコミュニケーションの重要性が認識されている。科学技術に対する理解・関心・意識を深め、多様な意見の存在を知り、合意形成につながる活動としての「リスクコミュニケーション」の事例を紹介し、その理論と実践的技術を学ぶ。

#### 概要

サイエンスコミュニケーションの手法開発や評価が、文献調査やアンケート調査などを中心とした研究や実践例の分析などを通じて行われている。本講座では、生活と密接な関係を持つ科学技術のリスク(感染症、くすり、食品添加物、遺伝子組換え作物・食品など)をめぐるコミュニケーションを実践している専門家から、現状・課題について説明する。

受講生は、各自が直面したり、関心を持ったりしている事象に関するリスクコミュニケーションに当てはめて、自分の問題として捉え、共考する。特定のリスク情報を伝えるリスクコミュニケーションの場を想定し、どのように伝えたらよいか、どのような場を創出すると対等な対話ができるのか、を考えながら演習を行う。演習では、評価表を用いて、互いのリスクコミュニケーションの評価を行い、今後の活動に役立てるようにする。